

64 静岡工科自動車大学校

Shizuoka Professional College of Automobile Technology

サツフォーミュラチーム

SAT's Formula Team



去年の悔しさをぶつける



今回の総合結果・部門賞

●総合57位

Profile チーム紹介・今までの活動

本校は、今年の大会で3回目の出場となりました。人数も時間も経験も少ないチームですが、スポンサー様のご協力、FAの方のご指導、整備学校ならではのアイデアで上位をめざして日々頑張っているチームです。

Team-member チームメンバー

永谷 遼太 (CP)

杉本 童 (FA)

鈴木 雄真、芹沢 悠介、大石 真也、池谷 拓真、向笠 翔汰、大石 祐樹、斉藤 鷹矢、津島 庸介、岩邊 拓朗、田中 一樹、岡田 一希

Presentation

プレゼンテーション

私たちチームは、まず今年度のコンセプトを決めるために去年のマシンを一から見直し、良いところを残し反省点を大幅に改善するところから始めました。その結果、整備性の悪さと居住性の悪さが浮上してきました。

その結果も踏まえ今年度のコンセプトを「誰でも乗れて弄れるフォーミュラカー」としました。昨年度のマシンは旋回性を求めるあまり、コクピットが狭くドライビングポジションが窮屈になってしまったり、エンジンルームが小さく手の入れようがなくなっていました。SFT03は、フレーム全体にゆとりを持たせることにより整備性を向上し、ドライバーが自然なポジションで運転できるようにしました。フレームが大きくなった分の重量は、パイプの肉厚の最適化により最低限に抑えました。

また、昨年度は吸気系で2次空気を吸ってしまいエンジン本来の性能を出せませんでした。今年度は吸気系の設計と材料を見直し、吸気抵抗の少ない形状とし、材料は3Dプリンターを使ったABS樹脂で製作し軽量化と信頼性の向上を図りました。

他にもいろいろな改善を施し「誰でも乗れて弄れるフォーミュラカー」というコンセプトを達成できました。

Participation report

参戦レポート

私たちチームは今大会で3回目の出場となりました。昨年度の大会はオートクロス直前でバッテリーが上がってしまい、1、2分の差で動的審査に出ることができずとても悔しい思いをしました。今年度のチーム目標は、去年度を追いつけ追い越せそして完走してジャンプアップ賞獲得でした。最上級生が2年生で右も左もわからず去年度をベースにしながら手探りでマシンや書類を作っていました。途中、意見が分かれたりといろいろな困難がありましたが、結果的に書類はすべて合格、マシンは車検も指摘事項が少なくチルト・騒音は難なく通過できました。そして去年悩まされたブレーキテストも1回で合格することができました。

そして、チーム創設以来初めての動的審査に参加することができました。スキッドパッドやアクセラレーションを無事クリアし、オートクロスは天候不順のため中止となり出走できず、いきなりエンデュランスに参加しました。ですがエンデュランスの2周目に入ったところでデファレンシャルに異常が起き完走することができませんでした。デファレンシャルにかかる負担を過小評価していたのが問題でした。

チーム目標であった「完走してジャンプアップ賞」とはいきませんでした。また新たな反省点を見つけることができ来年に繋げることができる大会だったと思います。

来年度は、SFT03を踏み台にしてもっと上をめざして頑張っていきます。

Sponsors スポンサーリスト

スズキ、丸山工業、NTN、深井製作所、ユニバンス、ユニフォームセンター、KUMHO、サンキン、協和工業、トクベン、THK、Solid Works、静岡工科自動車大学校後援会

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/13th/movie/64.html>